

オーナーblog 第 26 話 「医療における言霊の力」 (2025.11.8.)

いくせい流の学習法は、『有るものを活かす』そして、『天賦の才を開花させる』ことです。医師になっても、その哲学をもって 20 年以上にわたり研鑽してきました。

私は、兵庫医科大学でトップ 10 の成績を維持してきましたが、具体的な目標に、「専門医」や「開業医」が浮かびませんでした。奮起するための設定として絞りだしたのが、「心の清らかな医者になる」という目標です。誰が評価するのか？ 試験もなく合否もありません。抽象的な評価として、患者さんが元気になり、笑顔になることを日々の課題にしています。通勤の車中で『題目』を 3 回唱えます。自我が静まり集中力が増していきます。

外来では、患者さんのために、全身全霊を出せるように心掛けます。

科学としての診断能力は、勉強と経験で実力が上がっていきます。

私の患者さんは年齢に関係なく、①とにかく質問が多い。②自分の体の特徴を理解しようとする。③自らできることは努力を始める。このようなベクトルに進んでいきます。

よく聞く言葉が、「先生に申し訳ない。」という表現です。自分の体なのに自分より一生懸命に考えてくれて、気持ちもよく理解してくれているということです。患者さんは長生きして、男の 85 歳以上、女の 90 歳以上の自立生活者が多くなっているのが私の外来の特徴です。

去年は、がんが多く見付き、専門医に紹介するも、月に 1 回、私の外来に来ています。病気は専門医に任せ、病気に立ち向かう気持ちは、私を頼られているようです。

医療も教育も、先生たちの“魂”からの言葉で、生徒も患者も大きく変わります。